

2024 年度 第 2 回 一般社団法人日本疫学会理事会 議事録

日時	2024年(令和6年)6月12日(月) 9:00-12:00
場 所	Web 開催
出席者	(順不同、敬称略) 理事:玉腰暁子(理事長)、井上真奈美(副理事長)、関根道和(副理事長)、岡村智教、三宅吉博、小橋元、曾根博仁、片野田耕太、村上義孝、有馬久富、福島若葉、近藤尚己、郡山千早、井上茂、中田由夫、川崎良、後藤温、寶澤篤、三浦克之(第34回学術総会会長) 監事:横山徹爾、和田恵子 選挙管理委員長:福田吉治 第35回学術総会 会長 安田誠史 第36回学術総会 会長 金子聡 学会事務局:菊池宏幸(事務局長)、糟谷里美
欠 席	松尾恵太郎

- 理事会に先立ち、玉腰理事長より、理事・監事 21 名の出席により理事会が成立していることが確認された。

<協議事項>

- 2024 年度第 1 回一般社団法人日本疫学会理事会議事録（案）は承認された。
- 第 8 回一般社団法人日本疫学会定時社員総会議事録（案）は承認された。
- 動画作成 TF 長の福島若葉理事より、次の説明と提案があり、その方向性について承認された。TF の進め方としては、疫学会内にタスクフォースを置き、委員会横断的に、関連のメンバーが参加して進めることとなった。また、その時点で発刊予定であった日本疫学会標準テキスト「はじめて学ぶやさしい疫学・改訂第 4 版」をベースに作成することとなった。4 月 1 日に業者との打ち合わせを行い、①日本疫学会は、企画立案、進捗管理、作成された動画の確認や管理などを行う②学研では、動画コンテンツの著作物管理、ナレーションの対応（スタジオでの収録等）を行う（アニメーション動画の作成も可能）③南江堂では、テキストの画像データの提供や著作権関連の情報提供を行う ということになった。さらにその後の TF 会議において、①「集まったデータをどう扱うか」などの統計の部分ではなく、「研究デザイン」等の疫学概論にフォーカスする②テキストに沿うだけではなく、疫学的な考え方（誤解されやすいポイントを含む）を分かりやすく示すことで、他のコンテンツとの差別化を図る③動画の完成は、玉腰理事長の在任期間中を目標としたい との方向性が示され承認された。

4. 広報委員会 疫学リテラシー普及促進 WG 長の福島若葉理事より、日本疫学会ホームページの一般向けコーナー「疫学用語の基礎知識」編集作業について進捗状況の説明が行われ、「疫学用語の基礎知識」の新ページ（案）が提案され、承認された。また、「WG 学生サポートメンバー」の就任に伴う「WG メンバー」への昇格が提案され、承認された。
また、メディア連携 WG 長の近藤尚己理事より、継続検討課題であったメディカルジャーナリズム勉強会との連携について、当該団体の概要および連携することのメリット、デメリット等の説明があり、協定書についても提案があった。これについては、継続審議を行なっていくこととなった。
5. 疫学専門家委員長の井上茂理事より、疫学専門家の資格のプロモートは制度の根幹にかかわる重要な課題であり、疫学専門家タスクフォース（仮称）を立ち上げて資格推進の方策を議論していただき、実際に活動を進めたいとの提案があり、承認された。
6. 第 36 回日本疫学会学術総会の金子聰会長より、タイトル（暫定）と使用言語について、英語と日本語を並行して用いたいとの提案があり、日本疫学会の国際化を進める観点から、英語に不慣れな会員や学生への配慮をしつつ、第 20 回学術総会（国際疫学会西太平洋地域学術会議）をさらに発展させる方向性で進めていくことが承認された。
7. 総務委員会の菊池委員長より、編集室職員への弔慰金について提案があり、故人が父母相当にあたるとして、3 万円の弔慰金をお渡しすることが承認された。

<報告事項>

1. 玉腰理事長より次の報告があった。
 - 内閣感染症危機管理統括庁「新型インフルエンザ等対策政府行動計画の改定に向けた意見」への日本医学会連合としての意見出しについて、金子先生からのご意見あり（2/13）。
⇒ 日本医学会連合 健康危機管理対策のあり方に関する委員会においてとりまとめ、内閣府感染症危機管理統括庁に提出済みの連絡あり（5/1）
 - 生物科学学会連合「科学研究費助成事業の全体額増加に関する要望書」の修正案についてご意見伺い（4/24）
⇒ 賛同の意見多数ありのため、賛同の回答済み（5/9）

- 厚生労働省「予防健康づくりリーフレット」への協力について、實澤理事より説明があった。
- 関根副理事長より『はじめて学ぶやさしい疫学』（第4版）が発行（3/25）された旨の報告があった。

2. 各委員会等から次の報告があった。

- 1) 疫学リソース利用促進委員会 既存疫学研究データ資源化・共有・活用 WG の三宅吉博 WG 長より、データを保有している研究者がどの程度いるのか、またどのような受け皿を作れば次世代にデータを継承できるのかを検討することを目的として、既にデータや検体の収集が完了し、上記の状況におかれた疫学研究の調査を代議員へ行う予定であるとの説明があった。また、日本薬剤疫学会、日本疫学会、および日本臨床疫学会と共同で行っている Outcome-definition repository (ODR) の公開運用を開始する旨の報告があった。

また、リンケージ基盤推進 WG の活動について、岡村智教委員長より、これまで若井前 WG 長のもと、既存公的統計・保健医療データベース（コロナも含む）のリンケージの障害を明らかにする事を目的としてインタビュー等を積み重ねて来られたが、今後は、①これをまとめて、公にしてい く ②更には障害を取り除くべく関係省庁にアクションを起こす ということまで進めていくとの説明があった。

- 2) 学会等連携推進委員会の曾根委員長より、現在の活動状況および今後の活動について次の報告があった。①他学会との共催シンポジウムやセミナーを今後も積極的に推進していく。②日本医学会連合「社会医学系若手リトリート」の際に構築された社会医学系若手研究者のネットワークを中心に若手研究者相互の交流支援を行っていく。③関連学会との連携による学術総会参加費の減額を行う予定である。④学会としてのオンライン教育コンテンツ作成のために「動画作成 TF」に委員会メンバーに参画してもらい、その活動に協力していく。

次に、禁煙推進学術ネットワーク連絡 WG の片野田 WG 長より、ネットワークとの連絡調整事項について報告があった。①「加熱式タバコに関する見解および要望」が5月31日に財務大臣および功労大臣宛に提出された。②第6回学術会議を日本疫学会（片野田）、日本臨床腫瘍学会（福田実先生）、日本歯周病学会（稲垣幸司先生）の共催で2024年11月16日（土）に開催予定。③喫煙の健康影響およびタバコ対策に関する企画の立案と運営については、第35回日本疫学会学術総会@高知にてシンポジウムを企画予定。

- 3) 多様性（ダイバーシティー）促進委員会の村上義孝委員長より、今後は外国人会員の人数を把握し、ダイバーシティー促進の対策を講じていきたいとの説明があった。
- 4) 広報委員会の福島副委員長（有馬久富委員長）より、次の報告があった。① 4月15日に「日本疫学会ニュースレターNo. 63」（編集担当：原めぐみ委員）が発行された。② 一般からの問い合わせ対応を行なった。
さらに、疫学リテラシー普及促進 WG 長の福島理事およびメディア連携 WG 長の近藤理事より、各 WG の活動報告がなされた。
- 5) JE 編集委員会の片野田委員長より、次の報告があった。
 - COPE (Committee on Publication Ethics) へ再申請を行っている。年会費は 407 ポンド (74,000 円程度) で、申請のために 8 名の AE を登録した。
 - 2024 年 1 月 31 日に第 1 回国際編集委員会（ハイブリッド）を開催し、次の点について検討・確認を行なった。①経済制裁を受けている国・地域からの投稿の掲載料免除 ②JE 掲載記事の日本語翻訳による二次利用 ③特集号
 - Impact Factor 2022 は、4.7（前年 3.8）、5 年値は 4.9（前年 4.7）。
 - 科研費 国際情報発信：JE 掲載論文の PR 強化を行なった。2022 年 10 月 HP リニューアル、その後編集室メンバーで順調に運用している。
 - 年末年始に Thank You Authors Campaign 実施、2023 年出版論文を一つずつポスト
 - オセアニア地域の AE を増やすことと検討中である。
 - 日本疫学会プレセミナー2023（2023/1/31 13:00～15:00@びわ湖大津プリンスホテル（Journal of Epidemiology 編集委員会企画「よい論文を速く書くために 一生成 AI 活用術」）
 - World Congress of Epidemiology 2024（2024/9/24-27@南アフリカ・ケープタウン）JE ブース出展予定。
- 6) 国際化推進委員会の郡山委員長より、次の報告がなされた。①第 35 回日本疫学会学術総会（高知）シンポジウム企画：Symposium Planning for the 35th JEA Annual Meeting in Kochi を行なう予定である。②第 35 回日本疫学会学術総会 トラベルグラントを募集する。③国際疫学会西太平洋地域学術集会について：第 36 回日本疫学会学術総会（長崎）と同時開催予定である。
- 7) 疫学専門家委員会の井上茂委員長より、委員会全体の活動報告があった。①今年から更新申請が新たに始まる。②試験作成を進めていく。

- 8) 学術委員会の川崎良委員長（疫学研究推進 WG 長兼務）より、疫学研究推進ワーキンググループの活動について、次の報告がなされた。①第 35 回日本疫学会学術総会（高知）のメインシンポジウムを企画予定 ②疫学研究推進グループの継続（進捗管理）。

続いて、疫学教育推進 WG の後藤温 WG 長より、次の報告があった。①2024 年 8 月 4 日にサマーセミナーをハイブリッド形式で開催予定（@日本医科大学大学院棟）である。（ハイブリッド形式で開催予定である。③プレセミナー2025 の企画募集を 7 月に行なう。第 35 回日本疫学会学術総会においてプレセミナー2025 を実施予定である。

さらに、社会実装推進 WG の寶澤篤 WG 長より、第 35 回日本疫学会学術総会におけるシンポジウムの開催協力を行なう旨の説明があった。

- 9) COI 委員会の三浦克之委員長より、日本疫学会役員等の COI 状態の自己申告の提出（電子入力）実施の旨が報告された。

- 10) 選挙規定検討委員会の三浦克之委員長より、次の報告があった。①代議員の都道府県格差、男女差について、2023 年選挙結果の分析から、引き続き検討を行う。②代議員立候補時の年齢上限の延長について、選挙管理委員会より、[案 1] 立候補時の年齢は 60 歳を上限（おおよそ 62 歳まで代議員）※現状維持 [案 2] 立候補時の年齢は 63 歳を上限（おおよそ 65 歳まで代議員）の二つの案が出され、他学会の現状を調査し、方針について検討していくことになった。

- 11) 選挙管理委員会の福田委員長より、代議員の異動に伴う地域ブロックの欠員補充（6 月 1 日就任）および代議員数の変更（233 名→236 名 [3 名増]）についての報告があった。

3. 第 34 回日本疫学会学術総会の三浦克之会長より、次の報告があった。

- 開催概要：①テーマ：疫学が創る未来社会 ②会期：2024 年 1 月 31 日（水）～ 2 月 2 日（金）オンデマンド配信（2024 年 2 月 15 日～3 月 31 日）③会場：びわ湖大津プリンスホテル（滋賀県大津市）
- 参加登録者数：1,864 名（内訳 総会のみ：595 名、総会＋プレセミナー：760 名、プレセミナーのみ：509 名）
- 一般演題：①合計演題数 363 演題（現地口演 44、現地示説 317 演題、（うち 優秀演題賞候補セッション 5 題、英語セッション 9 題）

➤ シンポジウム等の学術企画

【1月31日(水)】プレセミナー(4セミナー) ① Journal of Epidemiology 編集委員会企画 よい論文を速く書くために ―生成AI活用術 ② 時間を斬る! : 生存時間解析における追跡時間の分割(split)の考え方と使い方 ③ 生存時間アウトカムの因果解析 ―斬った時間をリスクに戻す、反事実アプローチによる整合的な解析法のすすめ― ④ データベース研究のデザインと実践: 明日からできる! データベース研究

【2月1日(木)】①会長講演「循環器病疫学の温故創新」 ②特別講演「経済学から読み解く「食」と未来社会」 ③メインシンポジウム「未来社会と疫学」 ④シンポジウム1「因果効果の探求: ランダム化比較試験と観察研究の架け橋」 ⑤シンポジウム2「国際共同疫学研究の進め方と今後の課題」

【2月2日(金)】①シンポジウム3 学会等連携推進委員会 禁煙推進学術ネットワーク連絡WG企画シンポジウム「今、改めてハームリダクションについて考える」 ②シンポジウム4「疫学者による分子疫学研究」 ③シンポジウム5「ビックデータとAIが開く疫学研究の新潮流」 ④シンポジウム6「疫学が創る災害にレジリエントな社会」

➤ その他のプログラム

【1月31日(水)】第29回疫学の未来を語る若手の集い(若手の会)「聞いてみよう! 研究費申請書のポイントとは?」

【2月1日(木)】①ランチョンセミナー1「健康的で持続可能な食環境の整備について考える」②ランチョンセミナー2「最適化栄養食研究について」③奨励賞受賞講演 藤原和哉(新潟大学)、村上慶子(東北大学東北メディカル・メガバンク機構)④サテライトセミナー(国際化推進委員会企画)「Effective Ways to Write Research Funding Proposals」⑤懇親会

【2月2日(金)】①ランチョンセミナー3「尿中ナトカリ比に関して」②ランチョンセミナー4「WHOによる低周波電磁界の健康影響リスク」

➤ 協賛: 広告 14社(HPバナー 2社、眞熊動画広告 1社)、ランチョンセミナー 4コマ、展示 13件、飲料提供 1件、寄付 3件(名誉会員 2名、企業 1社)

➤ 収支決算: 収入 36,815,280円 支出 33,726,344円 差額 3,088,936円

4. 第35回日本疫学会学術総会の準備状況について、安田誠史会長より次の説明があった。①開催日時: 2025年2月12日(水)~2月14日(金) ②テーマ: レガシーに立脚する疫学研究のイノベーション ③会場: 高知市文化プラザかるぽーと(中央公民館、市民ギャラリー、大・小ホール) ④開催形態: 現地開催(一部主要行事 プレセミナー、特別講演、シンポジウムのみ後日オンデマンド配信予定)

④運営委託先：プロコム・インターナショナル ④ホームページ開設：
<https://procomu.jp/jea2025> ⑤一般演題募集：2024年8月1日～8月31日
(9/10頃まで延長予定)

5. 学会事務局活動および庶務について、菊池事務局長より次の報告があった。
- 1) 学会事務局活動：①入会・退会手続き、会員へメール配信、会計処理（各種支払い、謝金の源泉税納付、会計入力）、会費入金処理等 ②理事長ミーティング補助 ③委員会等の活動補助（委員委嘱状の送付、JE編集委員会：編集補助職員勤務管理・給与支払い、掲載料・別刷作成料の請求等、科研費管理・交付申請書および実績報告書提出、広報委員会：ニュースレターNo. 63 編集補助（4/15 発行）ほか ④第34回学術総会開催後の対応：受講票の送付、謝金に係る源泉税の納付 ⑤疫学専門家認定制度：認定証の作成と発送 ⑥疫学教育推進WG プレセミナー（アンケート集計） ⑧第2回理事会、学術総会引継ぎ開催準備 ⑨ホームページの更新：ニュースレター掲載、奨励賞推薦の募集掲載、事務局からのお知らせ、関連団体からのお知らせ ⑭関連団体への対応（日本医学会・日本医学会連合、社会医学系専門医協会 ほか） ⑮アンケート回答：(株)ユニバーサル社/CMC 学会資料センター、日本医学会分科会等
- 2) 庶務報告：①会員数（2024年6月1日現在）名誉会員：33名、代議員：236名、普通会员：2,403名（合計：2,672名） ②年会費納入状況（2024年6月10日現在）2024年度年会費の納入義務のある会員：2,591名、6月10日までの会費納入完了者：1,676名（64.7%）、3年以上の滞納者：69名

以上